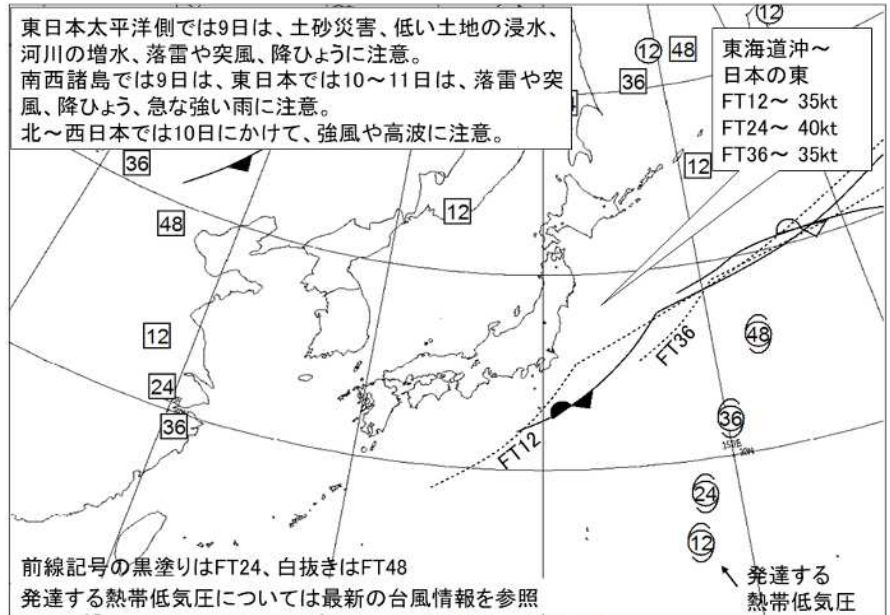


1. 実況上の着目点

- ① 西日本付近の 500hPa 5700～5760m には-15℃以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。衛星水蒸気画像で暗域が明瞭。
- ② 前線が日本の東から、伊豆諸島付近を通過して日本の南にのびている。前線付近では下層暖湿気が流入し、雷を伴って激しい雨の降っている所がある。また、前線の北側には、湿った北東の風が入り、西日本～東北地方で、広く降水がみられる。
- ③ 華中には高気圧があつて南南東に移動。また、朝鮮半島付近にも高気圧があつて東南東



主要じょう乱解説図

に移動。これらの高気圧と②の前線との間で気圧の傾きが大きくなっており、強い風が吹いて、波が高くなっている所がある。

- ④ 小笠原近海を熱帯低気圧がゆっくり北上。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは、9日は北～東日本を通過し、10日にかけて日本の東で次第に不明瞭になる。
- ② 1項②の前線付近では、前線に下層暖湿気が流入し、2項①の寒気を伴ったトラフの影響も加わり、引き続き大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。9日は、東日本太平洋側で、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風、降ひょうに注意。南西諸島では、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ③ 2項②の前線や1項④の熱帯低気圧と、1項③の二つの高気圧や、10日にかけて沿海州からオホーツク海に移動する高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、風が強くなり、うねりを伴い波が高くなり、しける所がある。北～西日本では10日にかけて強風や高波に注意。
- ④ 1項④の熱帯低気圧は、発達して台風になる予想だが日本付近への影響はない見込み。
- ⑤ 500hPa 5700～5760m で-15℃以下の寒気を伴ったトラフが、9日に中国東北区を南東進。10日にかけて深まりながら東進し日本海に進む。
- ⑥ 1項④の熱帯低気圧の北上と共に、10～11日にかけて東日本は気圧の谷となり、2項⑤の寒気を伴ったトラフの影響も加わり、局地的に大気の状態が不安定となる見込み。東日本では、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

- ②波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島4、東海・九州北部・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。